



下市田の古道

善光寺道・秋葉道

古道と言えば東山道である。この道は阿智村神坂峠を降って駒場に出るが、ここから何処へ行くのか定かでない。座光寺から下市田へ入ったという説は多いが、証拠は不十分である。

秋葉道は古くから塩の道として、静岡県の相良から塩など海産物の入る道として有名であった。この道は幾度か分岐を繰り返しながら、その一つは、遠山上村から小川路峠を越え、知久平から豊丘伴野の船渡しを経て下市田へ来る。天竜川に沿った険しい山岳路でありながら極めて重要であり、国道一五二号線となっている。今は三遠南信自動車道の建設によって脚光を浴びている。

善光寺道は、難波津を訪れた本田善光が、阿弥陀三尊を持ち帰って今の元善光寺に祀るが、やがて長野の善光寺に移され、靈験あらたかな仏として多くの信者を持ち、遠くから訪れる信者のために幾箇所かに道標も見られる。



区	番号	場所	路線	碑文
4	①	南沢	善光寺道	左ぜんかうし道
3	②	間ヶ沢	善光寺道	左原町 右ぜんこうし道
3	③	間ヶ沢	龍西線	此方牛牧ニ至ル 此方吉田山吹ニ至ル 此方田村線ニ通ズ 此方飯田並八幡ニ至ル
1	④	唐沢原	善光寺道	北せんかう□ 東ふなど道 南さかう□
1	⑤	小原	善光寺道	北善光寺道 東舟渡道 □座光寺道 ※欠損部□は「南」か
4	⑥	新井	善光寺道	右元善光寺道 松源寺 左ぜんこうし道
1	⑦	塚越	秋葉道	左あきは道 右さかうし道
2	⑧	金部	秋葉道	左あきは道 馬頭観世音 大沢
2	⑨	金部	秋葉道	左あきは道 馬頭観世音 右いた道
2	⑩	下田	善光寺道	馬頭観音 右せんこう志道
5	⑪	武陵地	座光寺道	右さかうし
5	⑫	力行23	菰山神社	参道

● 道標のある場所
 — 古道
 - - - 現在の道



変わりゆく萩の郷



惣兵衛堤防に下田の渡し(伴野の渡し)があった。滑車によって運行を助けていた。(上に滑車が見える)



堤防上の景観 昭和18年(1943)頃奥に供養塔が見える。



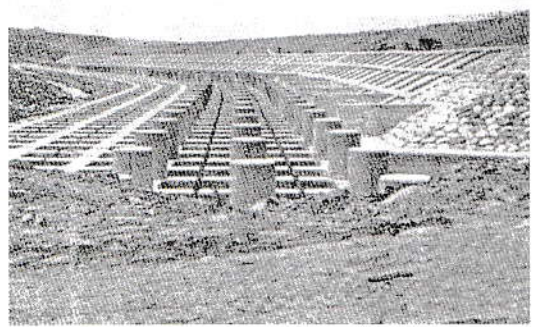
右端に見える塔は記念塔で、水害で流失し発見されていない。



昭和36年(1961)6月28日堤防決壊する(親水公園付近)。被害は流失耕地10ha、埋没耕地約500ha。



惣兵衛堤防の石積みが残り、その上に共に生きて来た桜も枯れて現在は朽ちた株だけが残されている。(ここは鍋づる堤防の内側になる)。左に供養塔が見える。これは流されなかったが、10m程西に移されている。



惣兵衛堤防の復旧工事 堤防総工費20億円。



惣兵衛堤防より80m内側に引き込めて新堤防が建設された。(親水公園の一角)水田8haが犠牲となっている。

惣兵衛堤防

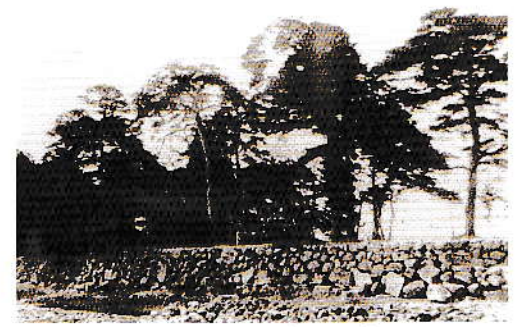


惣兵衛墓碑 (伊賀良)

大川除(惣兵衛堤防)
 正徳5年(1716)5月に発生した未滴水(ひつじまんすい)の時のよう
 な、甚大な被害を防ぎ、水田の開発を目的とした堤防の建設に着目した飯田
 藩主 堀親長は、黒須楠右衛門を工事奉行に命じ、石工に中村惣兵衛を工事
 担当とし、寛延3年(1750)に着工し、宝暦2年(1752)に完成した。
 堤防の規模 長さ146m
 堤防での保護耕地 下市田100ha 上郷・座光寺150ha



昭和26年(1951)、県の史蹟指定を受け、翌27年(1952)4月に記念石塔を建て記念式典を行った。



災害前の堤防上の姿、水天宮もこの中にある。



惣兵衛堤防の水天宮
 この水天宮は本流に流され埋没していたが発見されて祀られている。

市田駅周辺



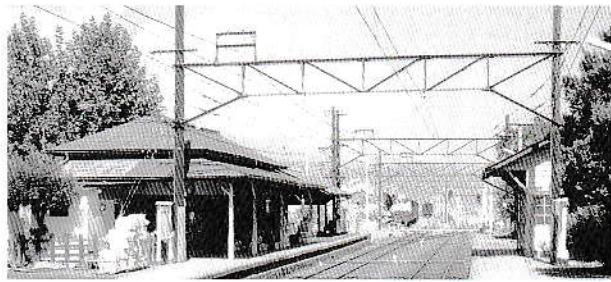
昭和末期の市田駅前の姿



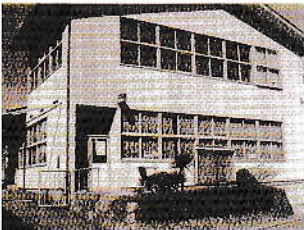
現在の市田駅前



改築前の市田駅の西口



改築前の市田駅



旧市田郵便局が2月19日に取り壊され昭和36年(1961)11月7日に完成した。ここでは当時上市田・山吹・神福の電話交換業務も行われていた。今は吉田に移されている。



出砂原の上の方にあった八十二銀行が駅前へ移転する。



昭和39年(1964)市田駅改築される。



農協Aコープ前の国道153号線。この右側にAコープが設立された。
昭和40年(1965)5月13日北原台地上より撮影。
きたのはら



昭和61年(1986)に農協Aコープが建設された。この敷地は下市田 雨製糸工場の用水の貯水池があった。
カネイデ

Aコープ下市田店



昭和37年(1962)、婦人会の要望により建設された母子健康センター。昭和57年(1982)廃止となり、寝たきり老人の一時預かりの施設となり、間もなく廃止となる。今は住宅地となっている。



母子センターの跡地に住宅が建つ。

母子健康センター

厚生連診療所に至るまでの経過



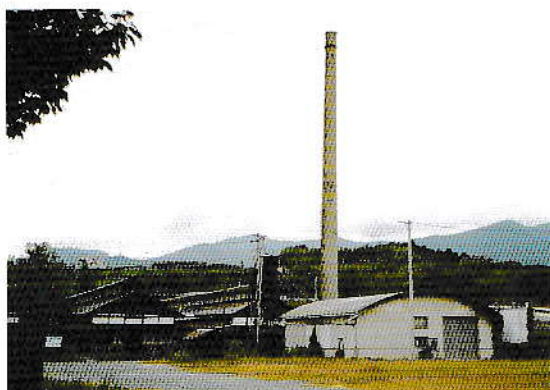
出砂原天竜都市田工場（昭和11年（1936）に操業始まる）



昭和4年 出砂原野球場完成（ここに天竜都市田工場が建つ）。



天竜社屋根まで土石流で埋まる。（三六災害）（昭和36年（1961））



昭和44年（1969）
出砂原の天竜都市田工場閉鎖が決まる。



天竜社工場の撤去が始まる。



昭和61年（1986）、厚生連診療所が創設された。
まだ煙突が残っている。



完成に近い厚生連診療所



製糸工場より新しく出発する準備をしている下市田支所。
（この建物は今は無い）

大正3年（1914）、下市田
共同組合市製糸工場が作られ、
大正4年より操業。
昭和11年（1936）に天竜
社に吸収され、製糸工場は廃業
になるが、農協下市田支所とし
て現在に至る。

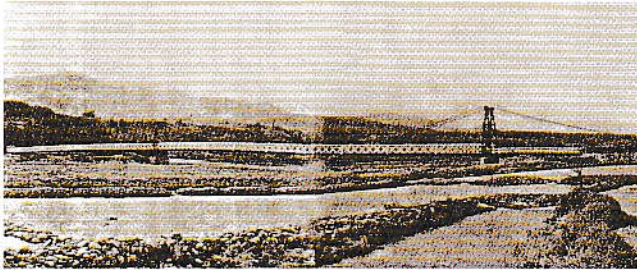
旧市田農協 下市田支所



現在JAみなみ信州高森ライスセンター



明神橋の変遷と出砂原堤防



当時の明神橋
明治42年(1909)、田村の片桐良作の出資と、両地元の協力によって吊り橋として明神橋竣工する。



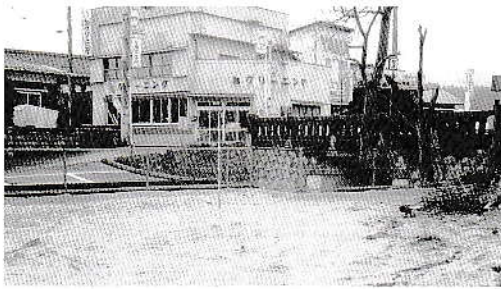
昭和7年(1932)、交通の急増により、ワーレン式曲弦鋼式による橋に架け替えられた。



完成した明神橋と間もなく取り壊されようとしている。旧明神橋(右側の橋)



平成8年(1996)、架け替えられた橋



明神橋架け替え前の橋の麓の姿
(茂吉の歌碑はここにあった)



明神橋の左手前の小公園(茂吉の歌碑)



36災害以後、補強された出砂原堤防



天竜舟下りの市田港(出砂原堤防)
後方の林は惣兵衛堤防



36災害後に補強工事されている出砂原堤防



橋の工事前の南の麓



橋の架け替え後の麓の変容

竜西一貫水路

一貫水路は水不足を補う極めて重要なことで、すでに明治20年（1887）頃から計画は進められていますが、昭和16年（1941）に着工し、以来28年を要し、昭和43年（1969）に中川村渡場から取り入れ天竜峡に至る大事業であった。



竜西一貫水路市田開渠（第三隧道前）

雲井橋付近



36災害時の雲井橋付近の惨状



現在の雲井橋付近

共中東北踏切の改善



昭和三十年（1955）代の踏切は、荷車かリヤカー位しか通行出来なかったが、今では大型トラックが自由に通行できるようになった。



完成間近い踏切辺りの工事

JAみなみ信州高森支所付近



昭和35年（1960）、町道中央線開通する（農協本所付近）市田駅より山吹までバス運行。



平成になつての農協本所付近、昭和33年（1958）新築される。



改善された現在の踏切



下市田学校〈明治21年(1888)新築〉、萩山神社の参道が向こうの林である。



下市田学校校舎移転記念〈明治43年(1910)〉



旧下市田学校西側、児童の玄関である。

明治6年(1873)、下市田訓蒙小学校として発足し、現在地に新校舎設立するも火災に遇い、明治21年(1888)に新築した校舎が現在の建造物で、当時建築した位置とは違い、明治末に現在地に移動し、若干の改造は行われてきたが、本体は当時のままで、貴重な建造物として町の文化財に指定されている。

旧市田小学校の変遷



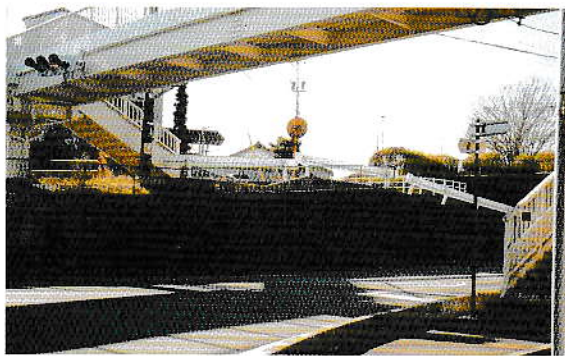
窓の様子から、移動直後の学校と思われる。



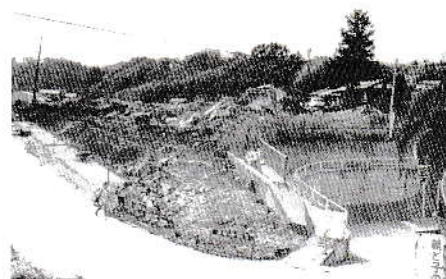
補習科の生徒の活動と思われる。



下市田学校の校舎を廃止し保育所となる。
〈昭和56年3月(1981)完成〉



北の原方面



都市計画事業の一環として、県農業試験場跡地に建設予定の中央児童公園。



飯田方面へ



現在の歩道橋付近

西方 役場・公民館方面

出砂原歩道橋附近の変容

長野県農業試験場下伊那分場

農業試験場は大正末期頃に、当時の関係者の非常な努力により下市田に設立された。しかし三六災害で大きな被害を受け、昭和の末期に角田原へ移転した。



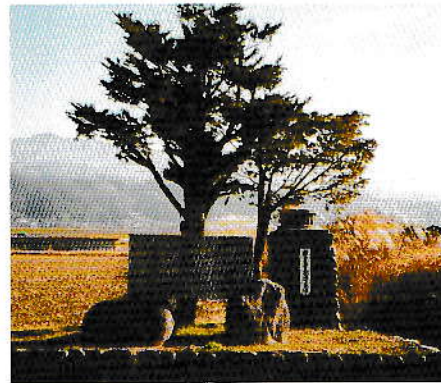
農事試験場の36災害の被害の状況(建物は試験場)



埋立も終わり、耕地化する直前(試験場附近)



前農業試験場跡地周辺の水田、遠方に柿畑もある。



移転した後に建つ記念碑



角田原に移った県農業試験場



試験場跡地に建てられた健康施設「あさざり」。

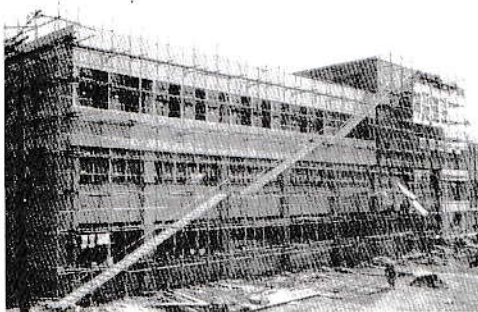
高森町役場の変遷

昭和21(1946)年に建てられてから30年、高森町の行政の中心として、あの大災害やいくつもの困難を乗り越えて来た。しかし、長い年月には勝てず、老朽化した建物は町制施行20年の年に現在の場所に建て替えられた。



この場所へ歴史民俗資料館が建設された。
 昭和54年(1979)に竣工する。

市町村立市田中学校が山吹中学校と合併し、新高森中学校を旧市田中学校の西方に移動して建設した。そのために、校舎を西方の畑に、校舎跡地をグラウンドに、旧グラウンドに役場福祉センター・中央公民館・体育館を建設した。



町役場建設中



町立体育館建設中

巨木・古墳・その他

天白神の祀られていた出砂原天白台地は、惣兵衛堤防の測地基点ともなっていたが、出砂原の開発と共に平地化され、現在の熊谷モーター通りが中心であったろうと言われている。

なお、この天白神の祠は市岡愛介さん宅に氏神と合祀されている。

この天白の森は平にされ、住宅が建っているが、この熊谷モーターの裏の辺りから高台となって、当時の面影を偲ぶことができる。



熊谷モーターズ、この辺からやや西よりあたりに天白の森があったという。



親木は枯れ、新しい枝が伸びてきた(平成期)



県天然記念物下市田の柊(昭和期が最盛期)

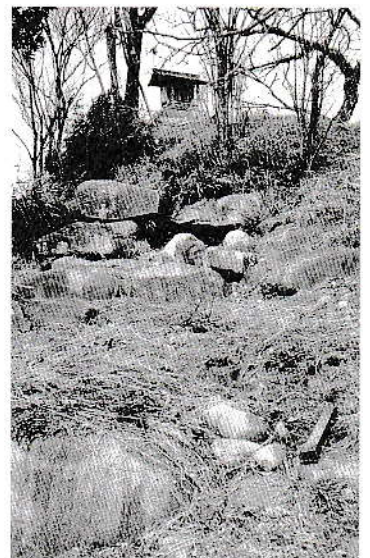


2区パーシモン会館(集会所)南側に生育していた柊、伐採されて今は無い。

下市田には多くの古墳があるが、この古墳は市田では最大で20m位の径で、有段式(二段式)で都下でも珍しく大切に保存したい。町では文化財指定をするため補修などとして準備を進めている。(平成20年現在)



畑中の塚(金部一号墳)二段式古墳



畑中の塚南入口